

2026年3月期 第2四半期 決算概要

2025年11月12日



パンチ工業株式会社

(証券コード: 6165 東証スタンダード)

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

■ 2026年3月期 2Q決算概要

2026年3月期 2Q決算ハイライト

1Qに続き日本の受注状況は低迷中だが、中国の自動車関連の受注好調もあり、増収増益

売上	連結	連結売上高は、前年同期比102. 9%、5億円増の205億円
	日本	前年同期比92. 8%の53億円 飲料関連は堅調だが、特に自動車関連の落ち込みの影響大
	中国	前年同期比107. 6%の122億円 自動車関連の受注が増加しており増収
	東南アジア	前年同期比106. 3%の10億円 ベトナム、マレーシアは好調、インドが不調
	欧米他	前年同期比103. 2%の19億円 欧州が好調に推移
利益		営業利益は、前年同期比142. 8%の989百万円 経常利益は、前年同期比170. 7%の1, 035百万円 親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期比263. 4%の559百万円
ネット資金		配当及び賞与支給等により、期首から872百万円減少

- 2026年3月期 2Q決算ハイライト
- 売上面では、日本の受注状況は低迷中だが、中国の自動車関連の好調な受注もあり、増収
- 利益面では、中国での増収効果が貢献し、連結で増益を確保

損益計算書サマリー(2Q比較)

(単位:百万円)

	2025年3月期		2026年3月期		前年同期差	前年同期比
売上高		19,989		20,564	575	102.9%
営業利益	3.5%	692	4.8%	989	296	142.8%
経常利益	3.0%	606	5.0%	1,035	428	170.7%
親会社株主に帰属する 中間純利益	1.1%	212	2.7%	559	346	263.4%

【為替レート(実績)】 1人民元=20.19円/1USドル=149.01円



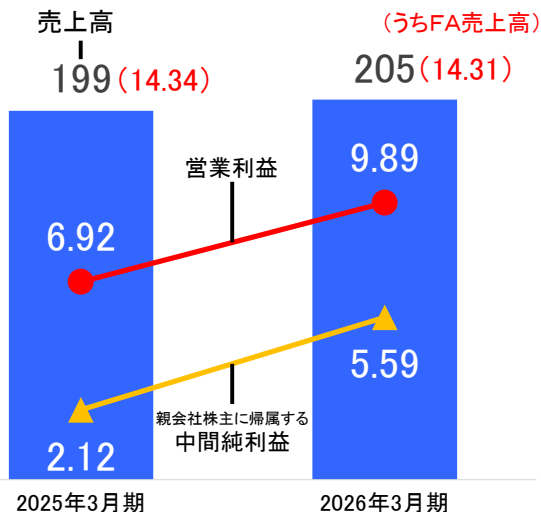
PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

© PUNCH INDUSTRY

- 決算数値の概要
- 売上高は205億64百万円で前年同期比102.9%、5億75百万円の増収
- 営業利益は9億89百万円、経常利益は10億35百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は5億59百万円
- 為替レート(実績)1人民元=20.19円/1USドル=149.01円
- 2Q時点の最終利益が通期予想を既に上回っていることもあり、通期予想を上方修正

売上高と利益(2Q比較)

(単位:億円)



【前年同期比較】

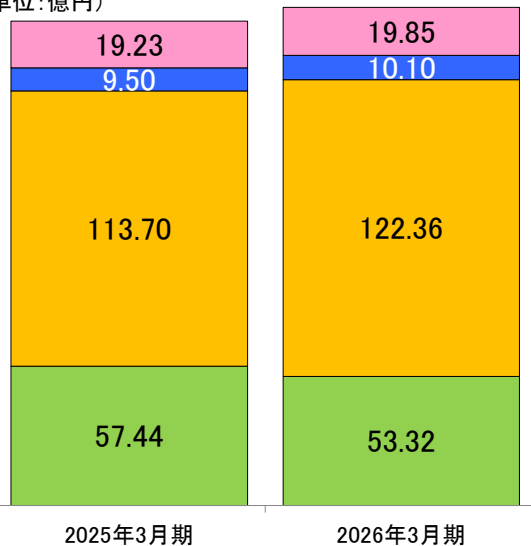
売上高	5 億 75 百万円	増収
営業利益	2 億 96 百万円	増益
純利益	3 億 46 百万円	増益

※親会社株主に帰属する中間純利益

- 2025年3月期と2026年3月期の売上高・利益比較(2Q)
- FA売上は中国事業では増収となったが、日本では減収トータルでは、ほぼ横ばい
- 連結業績は、前年同期の数値と比較して、増収増益
- 四半期ベースの推移は、資料末尾の「参考資料」へ掲載

地域別売上高(2Q比較)

(単位:億円)



中国では自動車関連の受注が好調に推移
欧米他も好調に推移

欧米他 欧州が好調に推移

東南アジア ベトナム、マレーシアが好調

中国 自動車関連が好調継続

日本 飲料関連のみ堅調

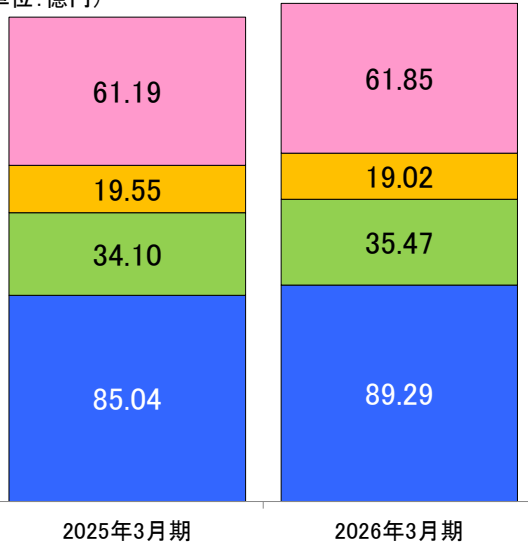
■ 2025年3月期と2026年3月期の地域別売上高比較(2Q)

- 日本が前年同期を下回った一方、中国・東南アジア・欧米他が前年同期を上回る実績

➤ 四半期ベースの推移は、資料末尾の「参考資料」へ掲載

業種別売上高(2Q比較)

(単位:億円)



自動車関連は中国での受注増
その他は商社経由の受注増

その他 商社経由の受注増

家電・精密機器 市場が低迷継続

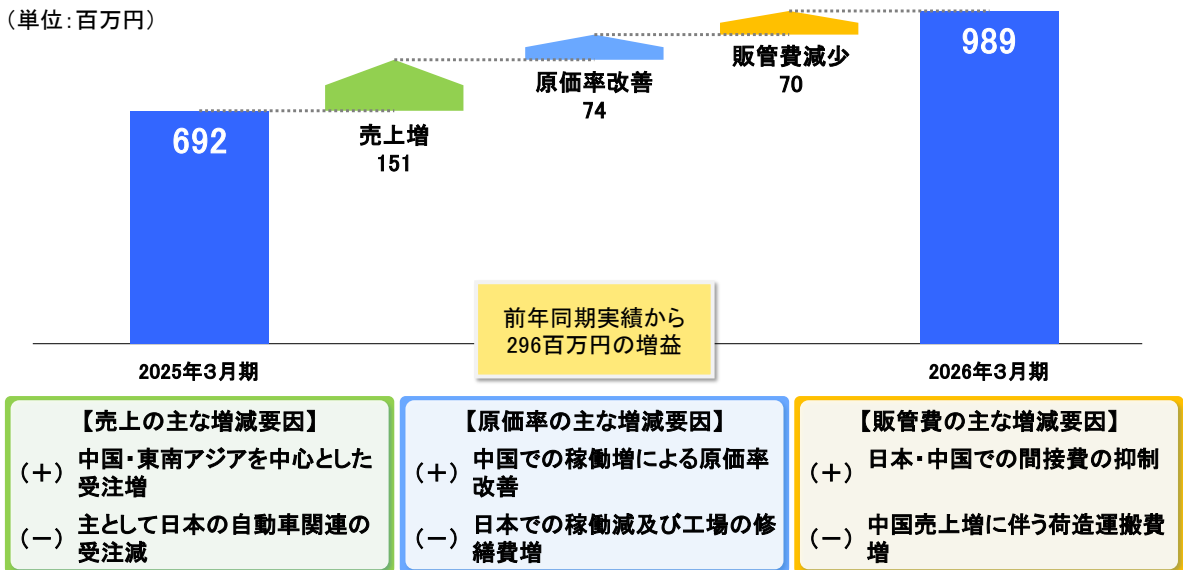
電子部品・半導体 スマホの中国市場の復調

自動車 日本は停滞継続だが
中国では受注好調

- 2025年3月期と2026年3月期の業種別売上高比較(2Q)
- 自動車関連は、日本では引き続き停滞しているが、中国での受注は新車プロジェクト等の影響もあり、好調に推移
- 電子部品・半導体関連は、中国のスマホ向け市場が復調気配
- 家電・精密機器関連は市場全体が低迷しており、小幅な減収
- その他関連は商社経由の受注増
- 四半期ベースの推移は、資料末尾の「参考資料」へ掲載

営業利益増減(2Q比較)

(単位: 百万円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

© PUNCH INDUSTRY

6

■ 2025年3月期と2026年3月期の営業利益の増減分析(2Q)

- 前年同期の営業利益6億92百万円に対して、売上増による1億51百万円の増益効果

原価率は、日本での稼働が良化していないこともあったが、中国での受注好調に伴い稼働改善があり、74百万円の増益影響

販管費は、中国の増収に伴い荷造運搬費が増加しているが、引き続き間接費抑制に努めており、70百万円の増益影響

- 結果、2026年3月期2Qの営業利益は、前年同期から2億96百万円の増益となり、9億89百万円を計上

貸借対照表サマリー

(単位:百万円)

	2025年3月期末	2026年3月期 第2四半期末	比較増減
総資産	32,970	31,736	▲ 1,234
総負債	10,931	10,670	▲ 260
うち有利子負債	3,101	2,902	▲ 199
純資産	22,038	21,065	▲ 973
ネット資金	3,393	2,521	▲ 872
自己資本比率	66.7%	66.3%	▲ 0.4pt

	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	比較増減
設備投資額(無形固定資産含む)	474	514	40
減価償却費(無形固定資産含む)	594	574	▲ 19

- 貸借対照表サマリー
- 総資産は、主として現金及び預金の減少等により、12億34百万円の減少
- 総負債は、主として長期借入金の減少等により、2億60百万円の減少
- 純資産は、主として為替換算調整勘定の減少等により、9億73百万円の減少
- 上記の結果、自己資本比率は前期末から0.4ポイント減少し、66.3%
- 設備投資額は、省力化・自動化投資への絞り込みを行って実施しており、前年同期から40百万円増加の5億14百万円

2026年3月期 通期連結業績及び配当の予想

(単位:百万円)

	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 連結累計期間			
		前回予想	修正予想	前期差 (前期比)	前回予想差 (前回予想比)
売上高	40,822	41,100	41,700	877 (102.2%)	600 (101.5%)
営業利益	4.1% 1,685	3.4% 1,400	3.8% 1,590	▲ 95 (94.3%)	190 (113.6%)
経常利益	4.0% 1,613	3.3% 1,350	3.9% 1,630	16 (101.0%)	280 (120.7%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	2.1% 868	0.7% 300	1.4% 570	▲ 298 (65.6%)	270 (190.0%)
自己資本利益率(ROE)	5.4%	1.8%	3.4%	▲ 2.0pt	1.6pt
投下資本利益率(ROIC)	6.0%	4.9%	5.5%	▲ 0.5pt	0.6pt

2026年3月期
配当予想

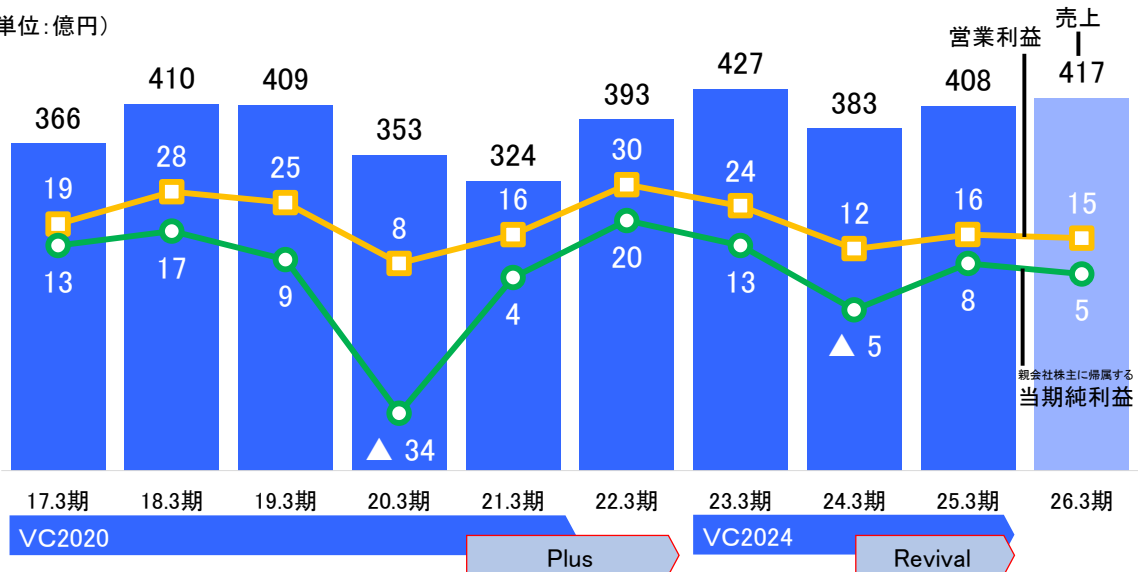
18円54銭(予定) = 中間 9円13銭 + 期末 9円41銭

【為替レート】 1人民元=20円66銭/1USドル=148円84銭 【設備投資】 設備投資額:14億円 減価償却費:11億円

- 2026年3月期の通期連結業績及び配当の予想
- 通期の連結業績予想は、第2四半期累計期間の上振れに加え、想定為替レートを円安方向に修正したことで増収となった一方で、国内事業での営業及び生産体制の再構築の遅れ等も勘案した上で、売上高及び利益を上方修正
- 想定為替レートを修正
1人民元=20円37銭から20円66銭
1USドル=147円07銭から148円84銭
- 配当予想については、株主資本配当率(DOE)3%をベースに算定した結果、年間で前回予想から28銭増となる18円54銭となる見込み
- 設備投資計画は約14億円、減価償却費は約11億円を見込んでおり、変更なし

経営数値の推移

(単位: 億円)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

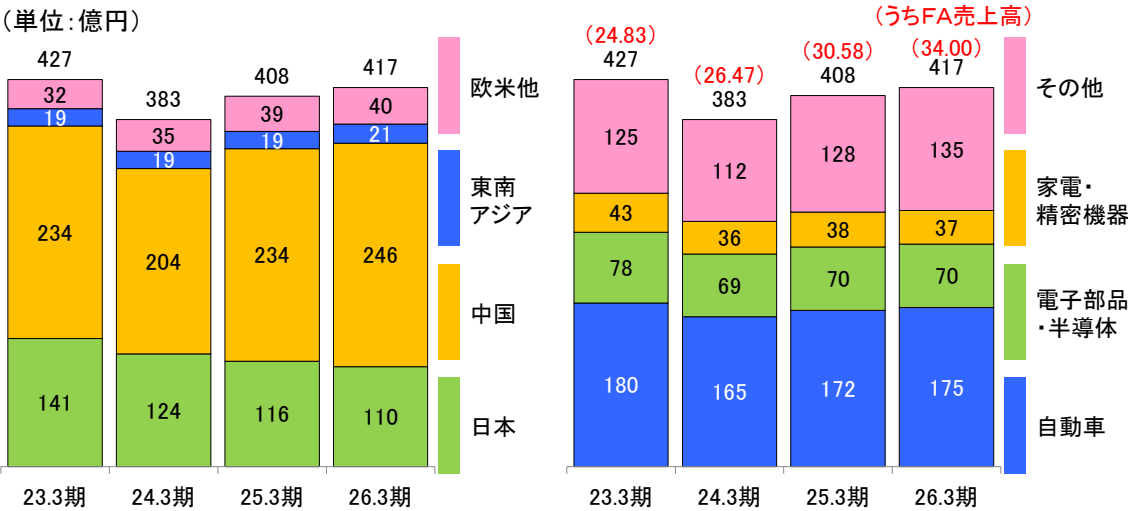
© PUNCH INDUSTRY

9

- 直近の中期経営計画期間中の売上・営業利益・当期純利益の推移をグラフ化
- 大きな特別損失を計上した2020年3月期からは回復傾向にあるものの、日本事業の立て直しが急務だと認識しており、各種の取組み強化や改革のスピードアップを目指す

地域別・業種別売上(FA含む)の推移

日本は営業人員不足による受注低迷継続、海外は景況回復基調も為替影響もあり連結では減収予測



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

© PUNCH INDUSTRY

■ 2026年3月期の地域別・業種別売上の内訳(FA売上含む)



長期ビジョン「Vision60」の概要 及び 中期経営計画VC28の方向性

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

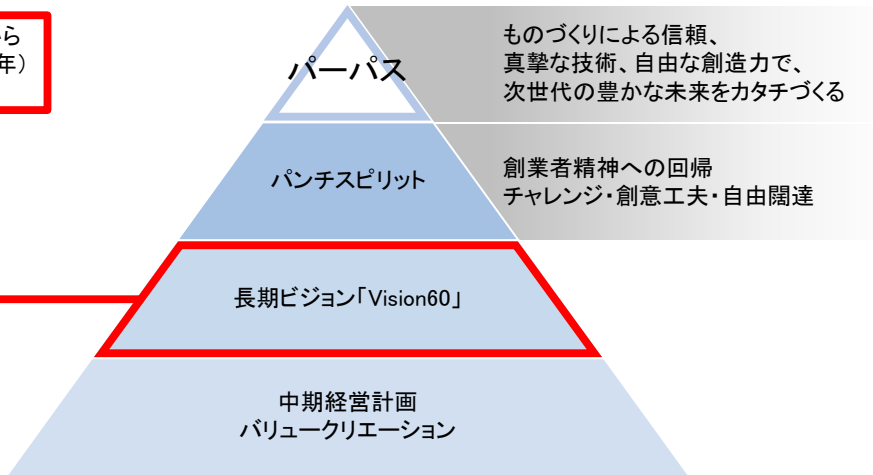
- 長期ビジョン「Vision60」の概要及び中期経営計画VC28の方向性
- パンチグループは今年2025年3月に50周年という節目を迎え、これから10年後の60周年に向け、長期ビジョンとして「Vision60」を策定
- 今後10年間のなかで、3期分の中期経営計画を実行する計画
- 当社は中期経営計画をバリュークリエーションと名付けており、略称としてブイシーと呼称
- 1期目の中期経営計画VC28は、2026～2028年度の計画期間
- あらためて、「Vision60」の大枠と、VC28の方向性について説明

長期ビジョン「Vision60」

～脱・金型部品依存～

事業領域を拡大し、絶え間なく変化する社会の多様なニーズに貢献する企業グループを目指す

パーパスと未来予測から導きだす10年後(60周年)のパンチグループの姿



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

© PUNCH INDUSTRY

12

- パンチグループが50周年という節目を迎え、これから10年後の60周年に向け、「Vision60」を策定し、パンチグループの“ありたい姿”として掲げたのが、

～脱・金型部品依存～

事業領域を拡大し、絶え間なく変化する社会の多様なニーズに貢献する企業グループを目指す。

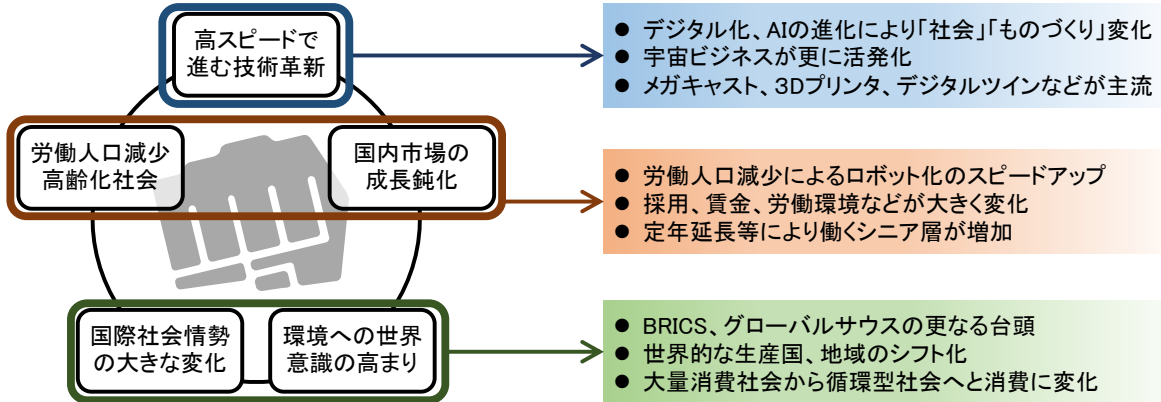
という、内容

- 脱・金型部品依存というのは、金型部品を縮小するということではなく金型部品以外の構成比を上げていく、将来の事業の柱を作っていくことを目指す
- パーパスの
「ものづくりによる信頼、真摯な技術、自由な創造力で、次世代の豊かな未来をカタチづくる」
と、パンチスピリット「チャレンジ」「創意工夫」「自由闊達」をキーワードとして、未来予測から考案
- この先10年間では3期分の中期経営計画を遂行することを予定しているが、この長期ビジョンをベースに方針を決定
- では、なぜ現在の事業の中心である、金型部品からの脱却を掲げたのかを順を追って説明

パンチグループが考える「未来予測」

足下の事業環境から10年後の未来予測とパンチグループの「ありたい姿」を想定

パンチグループを取り巻く環境



- このスライドではパンチグループに影響を与えるであろう未来予測を整理
- パンチグループを取り巻く環境としては、デジタル化、AIの進化、宇宙ビジネス活発化など、高スピードで進む技術革新が挙げられる
- また、高齢化社会となり労働人口減少によるロボット化の加速も予測される
- その他、世界的な生産国・地域のシフト化や大量消費社会から循環型社会へと消費が変化していくことも予見され、「社会」と「ものづくり」が大きく変化していくなかで、パンチグループも、その変化を上回るスピードで進化していく必要がある

10年後に目指す姿

パンチグループのパーパス

ものづくりによる信頼、
真摯な技術、自由な創造力で、
次世代の豊かな未来をカタチづくる

【技術革新への対応】

- 高スピードで進む技術革新
- 「ものづくり」変化・複雑化

【高齢化、市場鈍化への対応】

- 労働人口減少、高齢化社会
- 国内市場の成長鈍化

【社会情勢への対応】

- 国際社会情勢の大きな変化
- 環境への世界意識の高まり

FA事業及び新事業(金型部品以外)



■ チャレンジ

- 中規模企業のM&A

■ 創意工夫

- 既存事業にとらわれないR&D

■ 自由闊達

- 成功体験のグループ内連携



金型部品事業



■ チャレンジ

- 資本業務提携の効果最大化

■ 創意工夫

- 新業種・新地域の発掘

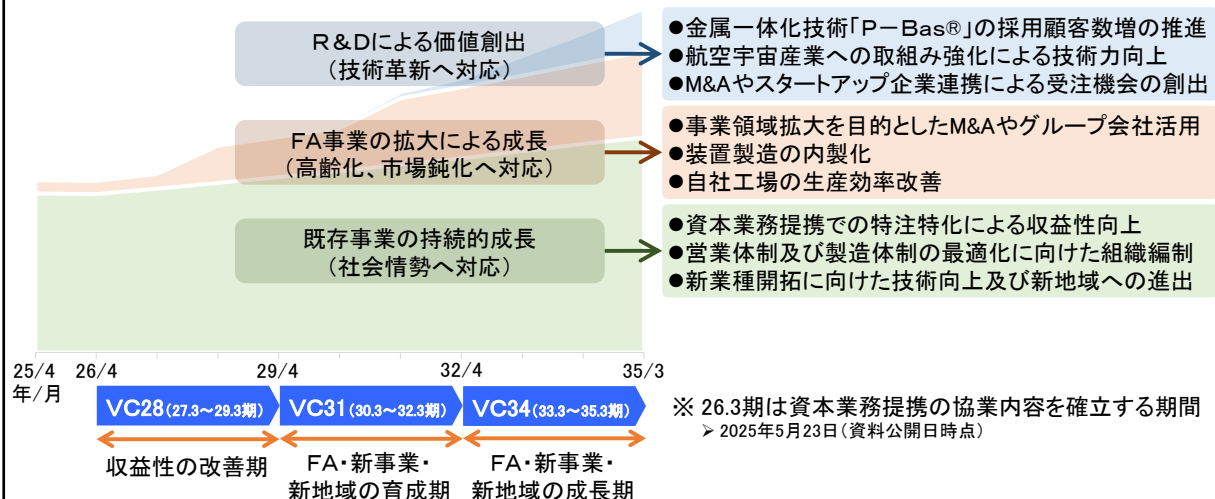
■ 自由闊達

- 営業と製造の取組み連携

- 未来予測を受け、技術革新、高齢化、市場鈍化への対応として、FA事業及び新事業へ取組み、金型部品事業以外で発揮するパンチスピリットは、
◎チャレンジとしてM&A
◎創意工夫としては既存事業にとらわれないR&D
◎自由闊達としては成功体験のグループ内連携を目指す
- 社会情勢への対応として、既存の金型部品事業では、
◎チャレンジとしてミスミグループ本社との資本業務提携の効果最大化
◎創意工夫として新業種・新地域の発掘
◎自由闊達として営業と製造の取組み連携を目指す
- いずれも根幹にあるのはパーパスであり、パーパスとパンチスピリットを各種の取組みに反映させていき、10年後には右側に記載してあることが実行出来ている状態を目指す

「Vision60」で目指す事業規模

既存事業を基盤として社会の多様なニーズに適合した価値創出



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

© PUNCH INDUSTRY

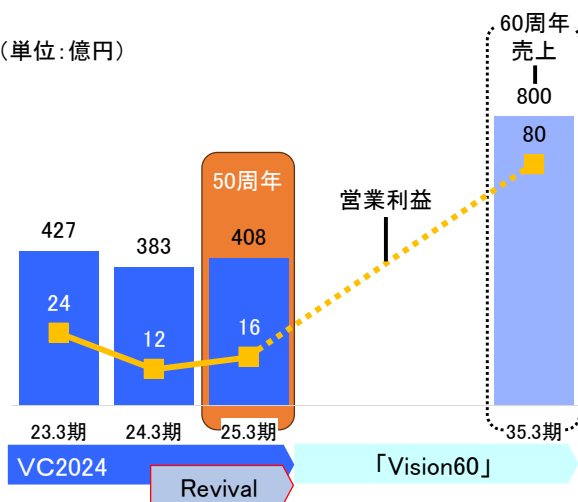
15

- 技術革新への対応として、金属一体化技術「P-Bas®」推進や航空宇宙産業への取組み強化にも着手し、新分野でR&Dによる価値創出を行い、新事業を立ち上げていく
- 高齢化、市場鈍化への対応として、FA事業の拡大による成長では、M&Aやグループ会社活用も検討しつつ、装置製造の内製化や自社工場の生産効率改善に取り組む
- 社会情勢への対応として、既存事業の持続的成長では、ミスミグループ本社との資本業務提携の効果最大化や新業種及び新地域への進出へ取り組む
- この先10年では3期分の中計を実行する計画だが、
 - ◎1期目の中計では収益性の改善期
 - ◎2期目の中計ではFA・新事業・新地域の育成期
 - ◎3期目の中計ではFA・新事業・新地域の成長期として取り組む

「Vision60」の経営数値目標

既存事業を基盤として社会の多様なニーズに適合した価値創出

(単位: 億円)



3つの中期経営計画を経て目指す経営数値

売上高	営業利益	営業利益率
800億円	80億円	10%

目指す経営数値の実現に向けた取組み

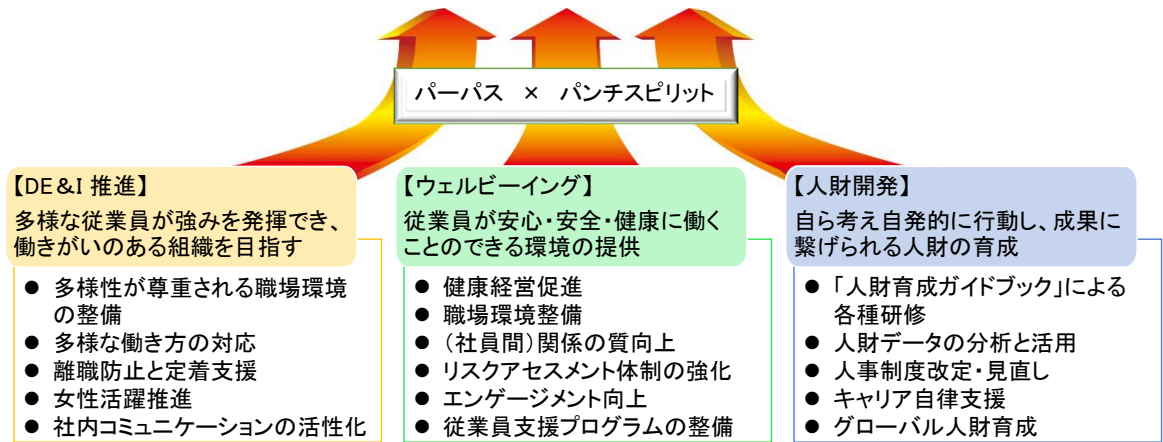
- 既存事業の持続的成長
- FA事業の拡大による成長
- R&Dによる将来の柱事業となる新事業創出

- 中計3期分を遂行するなかで目指す経営数値目標は、10年後に売上800億円、営業利益80億円、営業利益率10%と設定
- 超えるべき障壁はあるものの、パーパスを体現し、パンチスピリットを発揮した結果として、既存事業の持続的成長、FA事業の拡大による成長、R&Dによる価値創出により、売上と利益を積み上げて経営数値を算出
- 既存事業を基盤として社会の多様なニーズに適合した価値創出を行うなかで、高い目標に向けて邁進する

人的資本経営に関する取組み

人的資本経営の“ありたい姿”

多様な人財が自律的に活躍し、信頼とつながりに基づく職場文化の中で、企業価値最大化に貢献する組織



※ DE&I 推進

➢ ダイバーシティ(多様性)・エクイティ(公平/公正性)・インクルージョン(包摂性)

➢ 多様な人財が共に働く組織において、個々のニーズに応じた対応を行うことで、それぞれがいきいきと活躍し、継続的に成果を発揮するための考え方

PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

© PUNCH INDUSTRY

17

- また、事業の根幹は“人”である、という思いから、多様な人財が自律的に活躍し、信頼とつながりに基づく職場文化の中で、企業価値最大化に貢献する組織、を人的資本経営の“ありたい姿”の明確化として掲げた
- 多様な従業員がそれぞれに強みを発揮でき、働きがいのある組織を目指す
DE & I 推進や従業員が安心・安全・健康に働くことのできる環境を提供する
ウェルビーイング、自ら考え自発的に行動し、成果に繋げられる人財の育成を目指す
人財開発にも取組む

VC28の方向性

「Vision60」に基づき、収益性の改善を目指す

戦略骨子	取組みのポイント
既存事業の持続的成長	<ul style="list-style-type: none"> ● 原価低減、自動化・省力化による収益構造改革 ● ROIC向上、財務健全性の確保 ● 人材育成、品質・安全・環境対応の強化
FA事業の拡大による成長	<ul style="list-style-type: none"> ● FAパーツ～FA装置の販売強化、営業地域の広域化 ● 外部委託先の拡充、M&Aによる事業基盤強化 ● Web活用、展示会、営業支援による装置受注拡大
R&Dによる価値創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 精密ブロック、ギア、スピンドル、宇宙関連などの新製品開発 ● 硬脆材料・非金属加工技術の革新 ● 中国開発拠点での量産力強化とグローバル市場対応

■ 収益構造の改善と業務効率化を多面的かつ実行力重視で取組む

人員効率の向上と労務費率の低減	業務プロセスの簡素化・統合を進め、組織の合理化を図る
業務の自動化・省力化	部門間で連携し、既存業務の分析と最適化を継続的に実施
原価管理強化	内製品原価率の持続的低減（設備稼働率向上、製品コスト改善など）



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

© PUNCH INDUSTRY

18

- パンチグループは、初めて10年という長期Visionを策定
- 創業50年という節目を迎え、改めてこれからの50年をどのように成長していくかを考え、特に、脱・金型部品依存という大きなテーマを進めていくには、1年や3年の計画では、なかなか描けないということもあった
- パンチグループとしては、大きなチャレンジになるが、「パーパス」「パンチスピリット」をキーワードとして、世界のものづくりを支えていきたい
- また、人々の暮らしと地球環境を守る企業を目指すサステナビリティ方針や、法令を遵守し誠実に社会的責任を果たすとともに、経営の健全性及び透明性を高め、ステークホルダーにとっての利益を守り、企業価値の継続的な向上を図るために、「Vision60」を設定
- 1期目の中計VC28は収益性の改善期として社内でも継続して議論中
戦略骨子としては、
「既存事業の持続的成長」「FA事業の拡大による成長」「R&Dによる価値創出」を掲げており、内容に沿った取組みを実施予定
- また、「人員効率の向上と労務費率の低減」「業務の自動化・省力化」「原価管理強化」など、収益構造の改善と業務効率化を多面的、かつ実行力重視で取組む方向性
- なお、VC28は来年2026年3月末の公表を予定

参考資料

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

■ 各資料につきましては、当社Webサイトよりご覧ください。

■ 中期経営計画及び長期ビジョン「Vision60」

➤ https://www.punch.co.jp/ir/med_management.html

■ 決算短信

➤ <https://www.punch.co.jp/ir/library/tanshin.html>

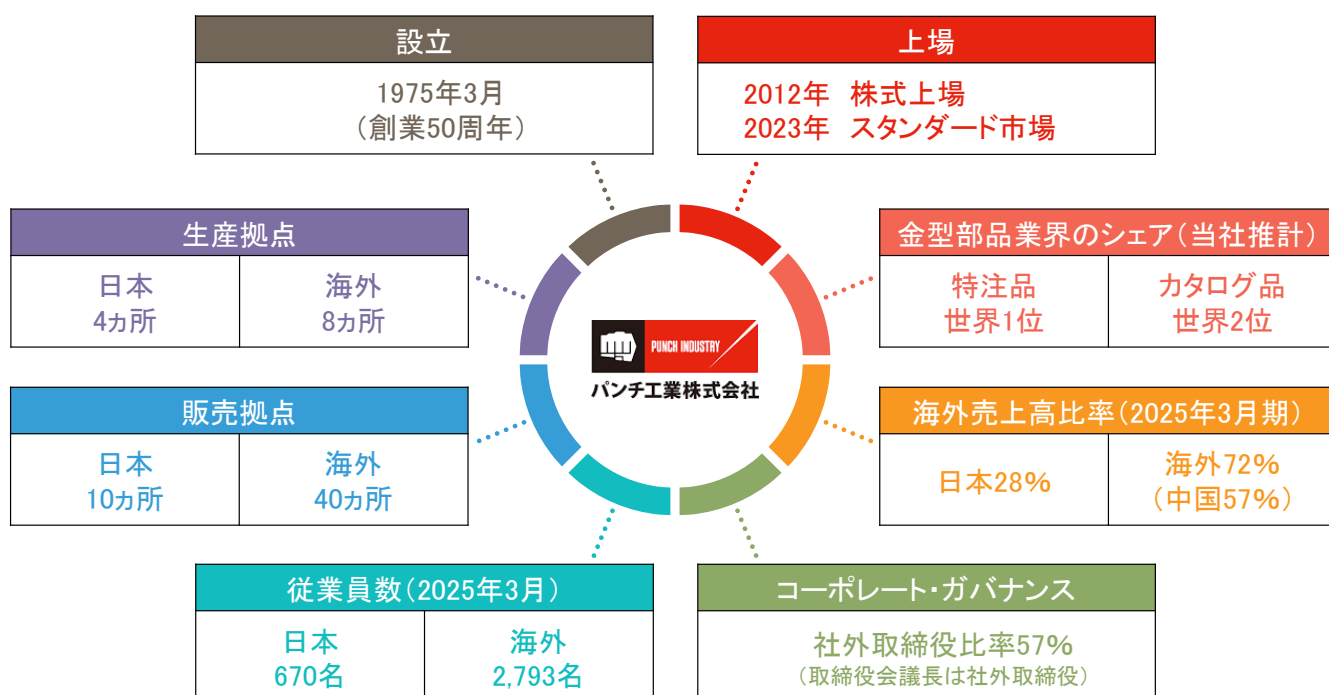
■ 決算説明資料

➤ <https://www.punch.co.jp/ir/library/setsume.html>

■ IRニュース一覧

➤ <https://www.punch.co.jp/ir/2025/>

ひと目でわかるパンチグループ



マネジメント体制

代表取締役社長プロフィール

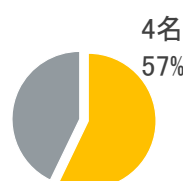
氏名及び生年月日 職歴

	森久保 哲司 (1977年1月22日)	2003年5月	当社入社
		2005年2月	盤起工業(大連)有限公司
		2012年11月	バリュー・クリエーション推進室長
		2013年4月	経営企画室長
		2015年4月	PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.
		2016年5月	執行役員
		2018年6月	取締役 上席執行役員 経営戦略統括
		2019年4月	最高戦略責任者 グループ事業統括
		2019年6月	代表取締役(現任) 副社長執行役員
		2019年11月	社長執行役員 最高経営責任者 グループ経営統括(現任)

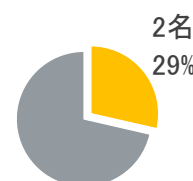
取締役体制

取締役	代表取締役社長執行役員 最高経営責任者(CEO)	森久保 哲司
	取締役上席執行役員 最高執行責任者(COO)	高梨 晃
	社外取締役	高辻 成彦
	社外取締役 取締役会議長	大里 真理子
取締役 (監査等委員)	取締役(監査等委員)	河野 稔
	社外取締役(監査等委員)	鈴木 智雄
	社外取締役(監査等委員)	田畑 千絵

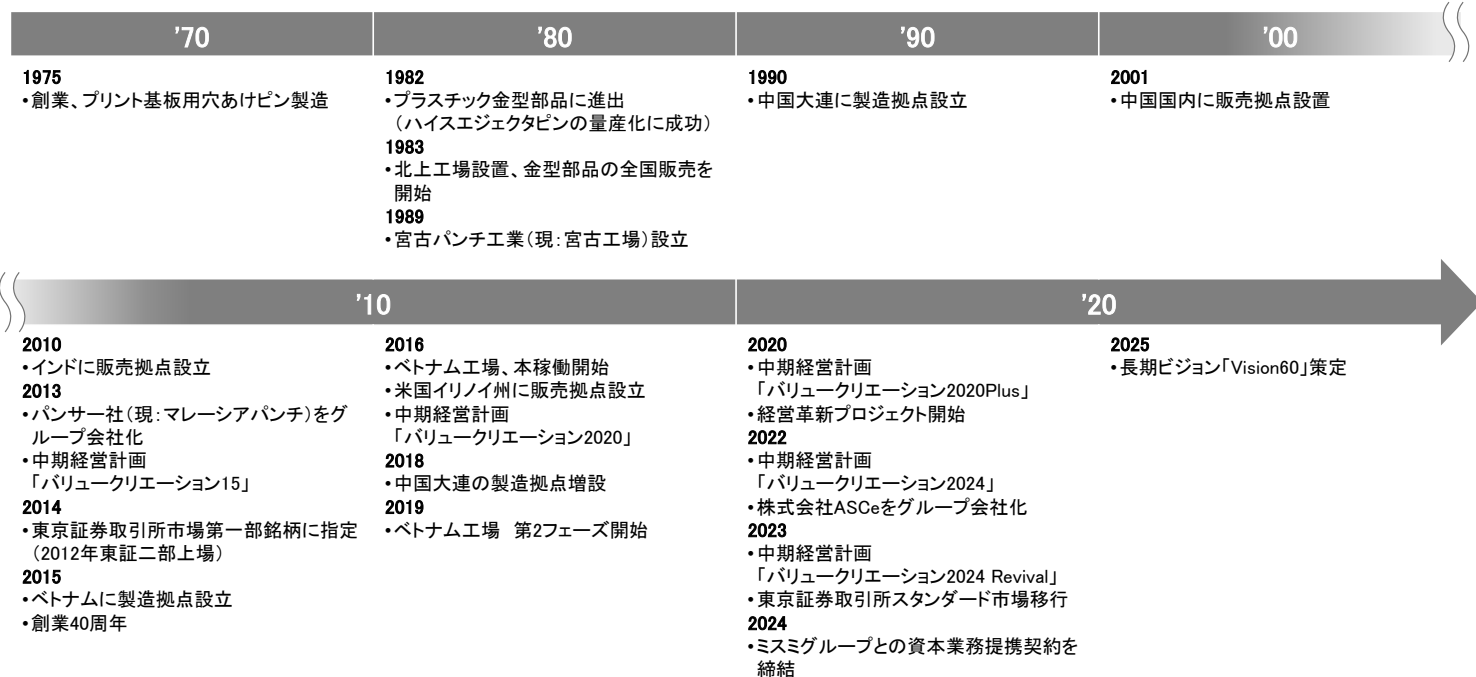
社外取締役比率



女性取締役比率



パンチグループ沿革



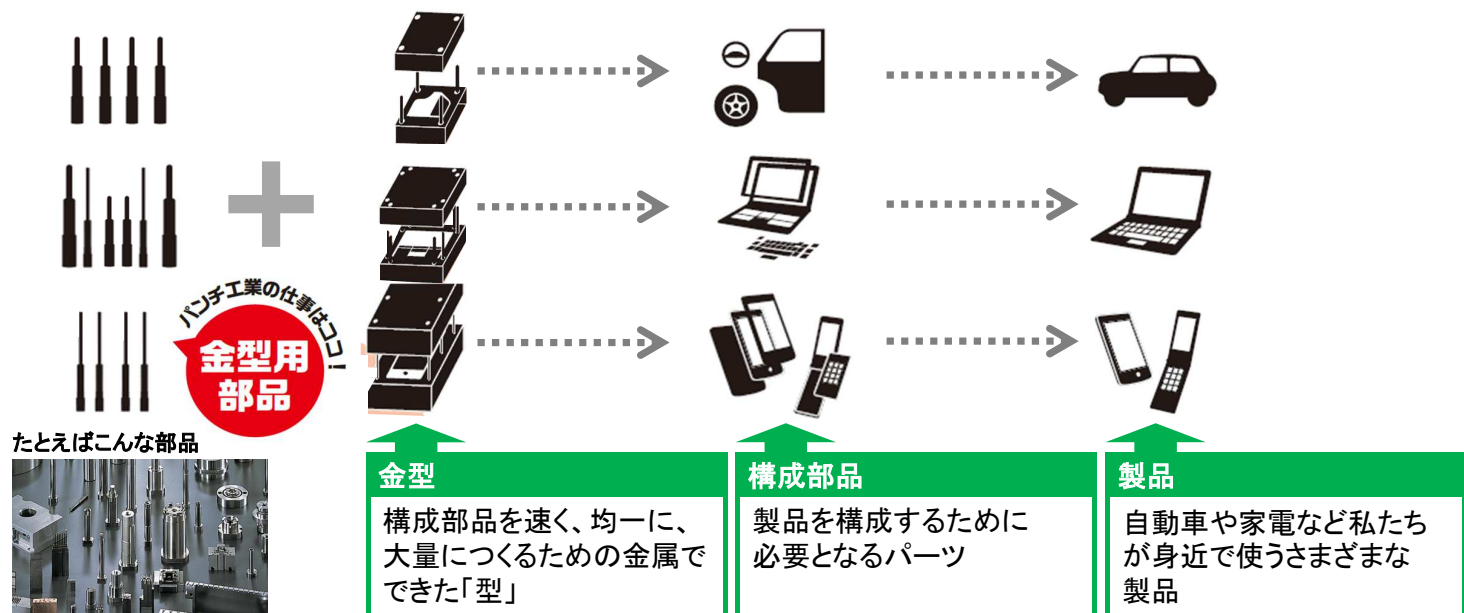
PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

© PUNCH INDUSTRY

22

事業内容

金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密金型部品の製造・販売
皆様の豊かな生活を支える「縁の下の力持ち」



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

© PUNCH INDUSTRY

23

パンチグループの主要製品

射出成型金型等のプラスチック金型部品とプレス加工金型等のプレス金型部品
ものづくりの上流から下流までお取引

プラスチック金型部品

プラスチック金型は、スマートフォンやデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造に用いられています。加熱溶融したプラスチック樹脂を、射出成形機に実装された金型に注入し、冷却、固化することにより製品が作られます。パンチグループでは、この金型を構成する部品を製造・販売しています。



主要な製品

エジェクタピン

射出成形された成形品を金型そのものから離し、突き出すための部品（押し出しピン）です。



主要な製品

コアピン

製品部を成形するのに使用し、コアピンの形が転写されます。製品部の貫通させた部分を成形したり、製品部に彫刻をします。

プレス金型部品

プレス機（上下運動する機械）に金型を装着し、上下に分かれた金型の間に材料となる金属の鋼板を入れ、プレス機を稼働することにより、金型で型どられた製品ができ上がります。パンチグループでは、この金型を構成する部品を製造・販売しています。



主要な製品

パンチ

プレス金型に組込まれる代表的な部品で、金属板に穴をあけたり、形状を転写するための部品です。当社の社名はこのパンチに由来しています。



主要な製品

ホルダーガイドポスト関連

上型と下型の関係を正しく保つために使用する部品です。

パンチグループの強みとネットワーク

汎用性の高いカタログ品を豊富にラインアップ & カスタムニーズにも対応する特注品
世界の「ものづくり」を支える

パンチグループの強み

お客様に高い満足度を提供

日本・中国

特注金型部品シェア1位 ※当社推計

カタログ品

汎用性の高い標準製品を豊富にラインアップ



タイムリーで的確なソリューション

一気通貫の生産体制
2,000台の設備で幅広い対応力

お客様密着型の営業体制
きめ細かな対応・提案力

特注品

カスタムニーズにも柔軟に対応

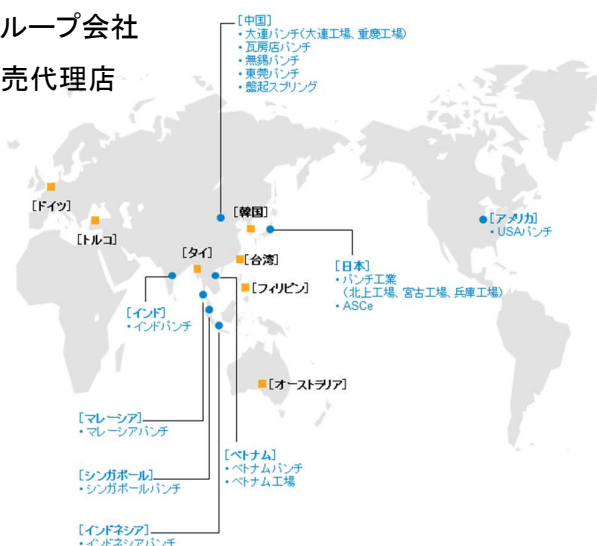


高い技術力
創業以来培ったノウハウと
たゆまぬ研究開発

パンチグループのネットワーク

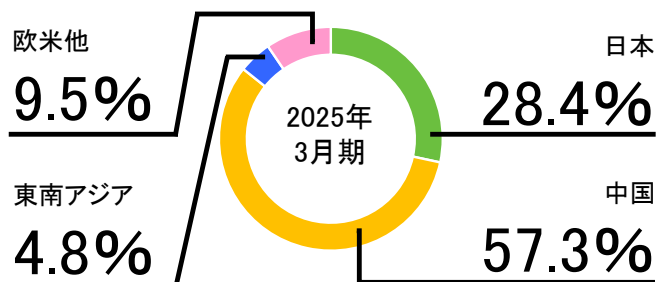
グループ会社

販売代理店

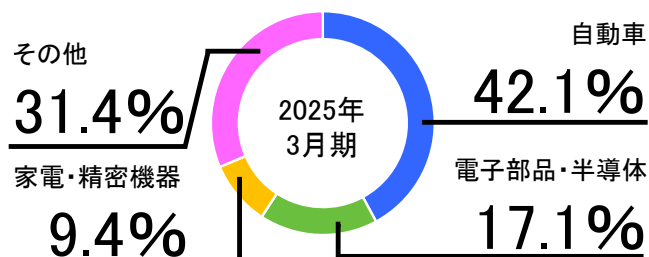


地域別・業種別売上高構成比

地域別売上高構成比

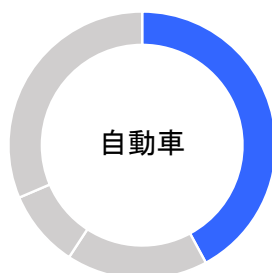


業種別売上高構成比



業種別の主要顧客

日本での主な競合先: 大手総合機械商社、地場金型加工メーカーなど
中国での主な競合先: 中華系機械商社、中華系機械メーカーなど



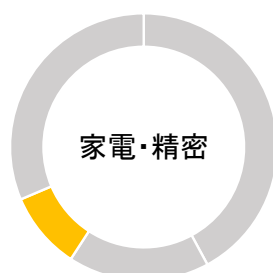
主要顧客

自動車メーカー
及びTier1,2
金型メーカー



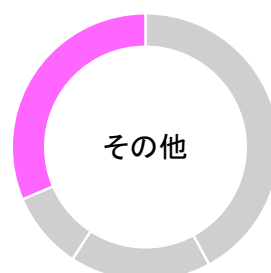
主要顧客

電子部品メーカー
半導体装置メーカー
金型メーカー



主要顧客

家電メーカー
金型メーカー



主要顧客

文具メーカー
玩具メーカー
医療メーカー
飲料容器メーカー
グローバル商社
金型メーカー

エンドユーザーのイメージ（例：自動車関連）

大多数のエンドユーザーは金型メーカー

自動車メーカー



ボディ・外装・シート・
コネクター・等々のメーカー



金型 メーカー

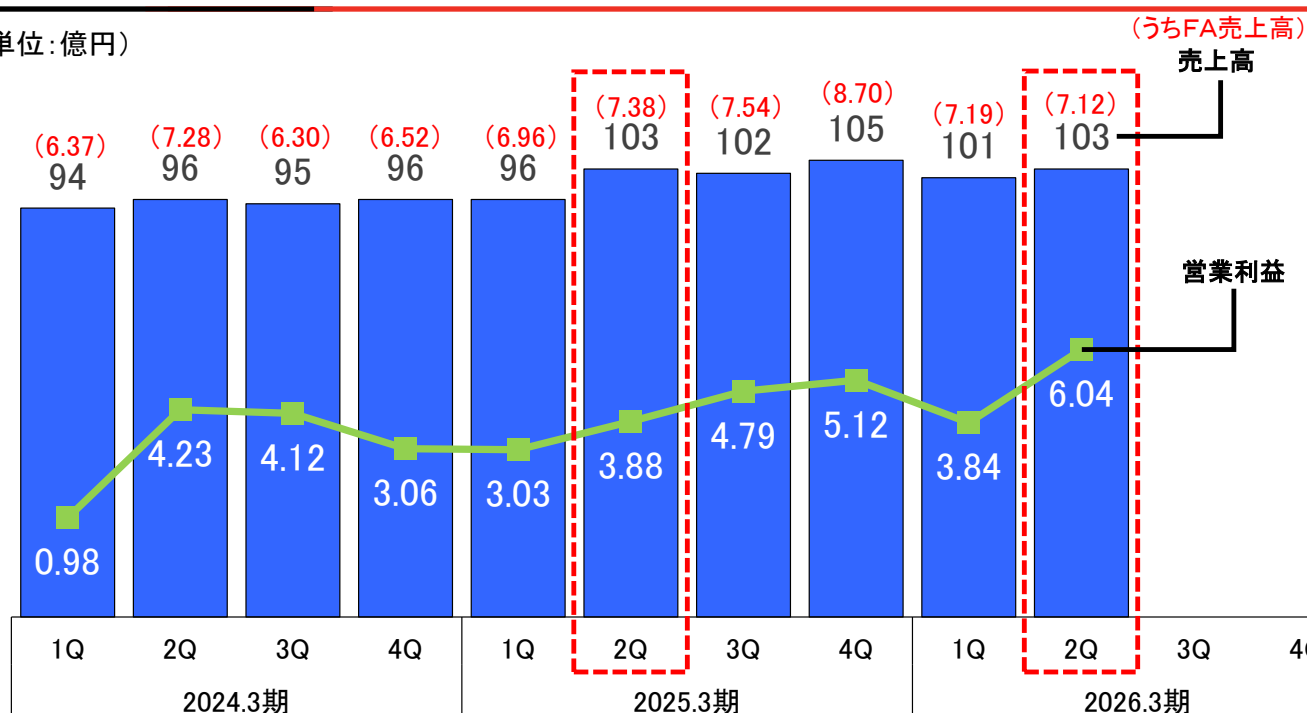


パンチグループ



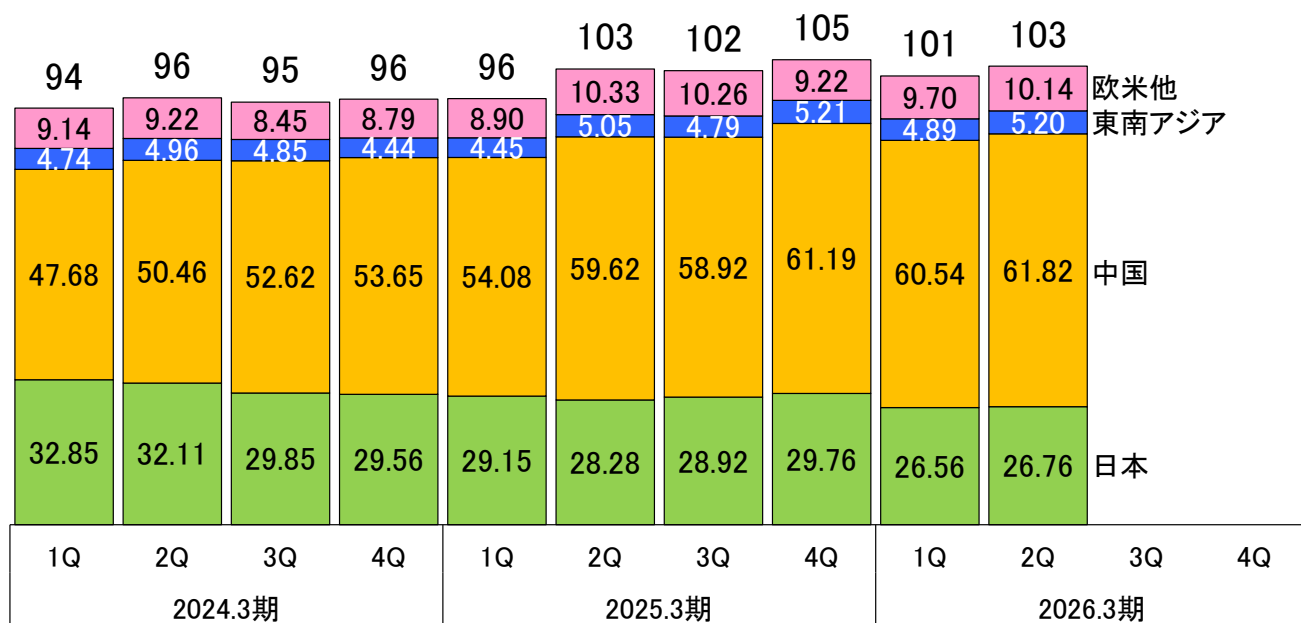
売上高と営業利益の推移

（単位：億円）



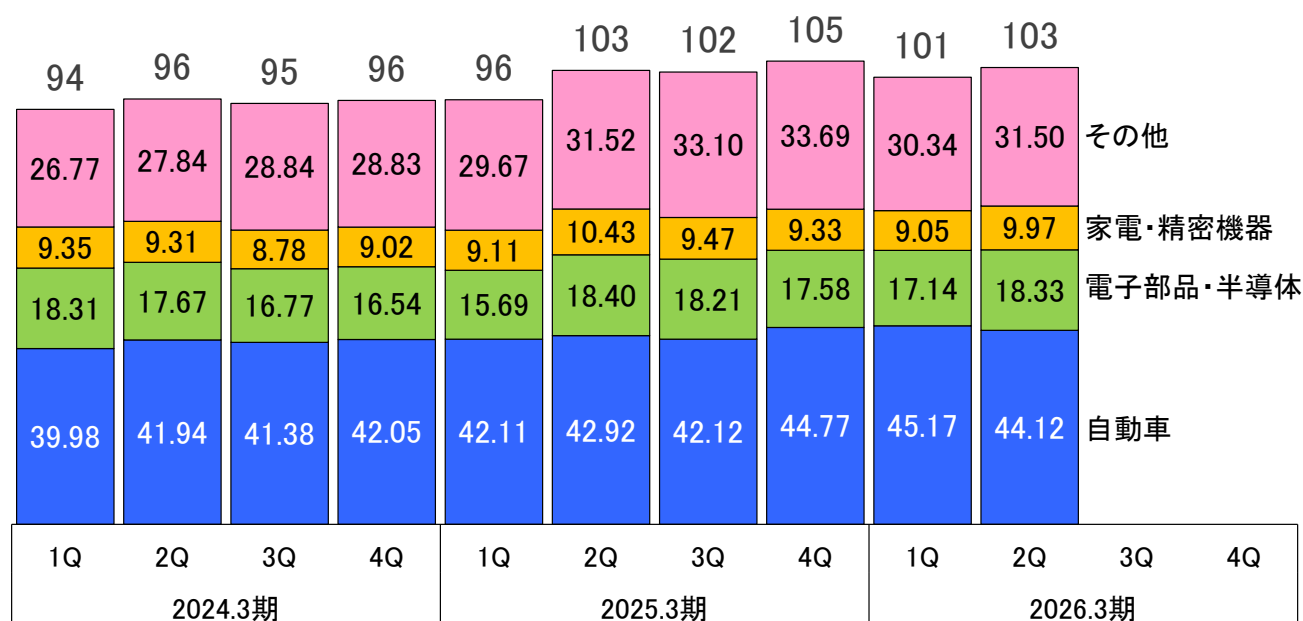
地域別売上高

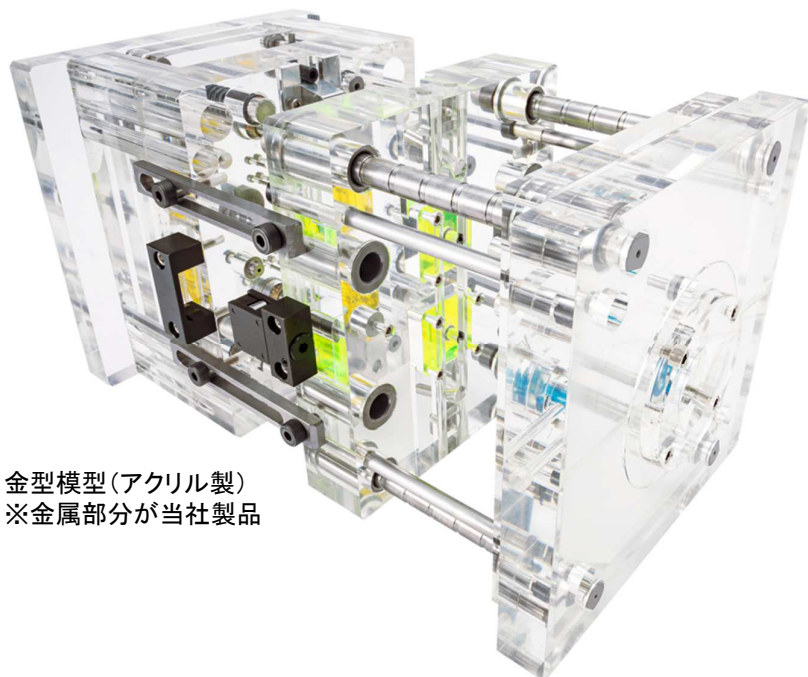
(単位:億円)



業種別売上高

(単位:億円)





金型模型(アクリル製)
※金属部分が当社製品

【IRに関するお問い合わせ先】 パンチ工業株式会社 コーポレート・コミュニケーション室 広報IR課 電話:03-5753-3130 e-mail:info-corp@punch.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。